

マルチネルの街角で

YKI 国際特許事務所 弁理士◇葦原 エミ

Vol.12 てがみ

「？」

「！」

これは、ミュージカル映画としても大人気の「レ・ミゼラブル (Les Misérables)」の作者ヴィクトール・ユーゴーが出版元のアルベール・ラクロワと交わした、世界で一番短い手紙といわれている。

「？ (売れ行きは?)」「！ (すごいぞ!)」ってことらしいが、残念ながら実話ではないようだ。でも、本当だったら粋じゃん？ 封を開けたら、「？」。筆者なら、どう答えただろう？

時代は変わって、今や多くが E-mail。スパム→削除でなければ、何か返答せねばなるまい。

それは某国代理人からの 1 行 E-mail だった。仮にジュリエットと名づけよう。おそらく、「応答期限はいつ？」と聞きたいとおぼしき英語。日本特許庁から発せられたマドプロの暫定的拒絶の通報が添付されている。

同僚いわく「以前、ジュリエットから特許出願の依頼を受けたことがあります。意思疎通がスムーズにいかないかも」と。顔に「はは、きちゃいましたね～」と書いてある。うう～ん。。。なんだか、前途多難な感じ。

期限と補正で拒絶が解消できることを伝え、委任状フォームを送付した。しばらくしたら、また、1 行返信が。

「I ATTACHED POA. (委任状を添付しました)」。

お～い、補正内容の検討、まだしてないぞー。っていうか、これ、指示書？ 指示書は、レターであれ、FAX であれ、E-mail であれ、とにかく「文字」でもらうのが原則である。で、返信した。「1. これこれの補正案はいかが？ 指示ちょーだい。2. 委任状署名者の氏名を教えて。3. 委任状の原本を送ってね」。

そしたら、また 1 行、お返事がきた。「It's correct」。。。「何が correct なんですかねえ？」と同僚。それはきっと補正案に賛成って意味だね～。でも、これで指示とはまだいえないね～。それに委任状の原本が届いてないし。

「このような補正をしますよ、いいですね？ 委任状の原本を送ってください」。でも、次にきたお返事は。。。「I need invoice」。気分はちょっと絶望的。

「おお、ジュリエット、わたくしはまだあなたから指示すら受けておりません。請求書なんて、まだまだ先のお話です」なんて丁寧に書いても、きっとジュリエットには分かってもらえない。

筆者は決めた。3 単語でやり取りするぞ！ 冠詞も、複数も、時制も、全部、ぜ～んぶ無視するぞ！

We file Amendment. Is it OK ?
We need ORIGINAL.

“ギブミー・チョコレート”の気分。「英語がシンプルになりましたね」と同僚からは好評(?)。そして、無事、すべて提出した！

こんな 1 行会話はまだけけど、いろいろ書いてあれば、分かる、ってもんでもない。

それは某国代理人からの問い合わせ。「拒絶がきたらどうなるんだ？」云々と 10 個ぐらい、質問が羅列してある。

いや、これとこれは、以前質問を受けて、既にお伝えしたと

おり……と言いたところだけど、きっと彼女は同じ質問を 20 カ国に定型的に送っているにすぎない。

誠意ある筆者は、「以前、お伝えしましたとおり、云々」と回答する。しばらくしたら、本当に拒絶理由通知が届いてしまった。報告したら、「で、これはどうなんだ、こうなのか？」……あのお、これにお応えするのは既に 3 度め？ 筆者が「！」と答えて、分かっていただけの日はいつのことか。。。



※ 撮影協力：デリリウムカフェトキョー（霞が関）